

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 23 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	尾畑 佑樹	会員番号	0031499
申請者の所属・職名	千葉大学大学院 医学薬学府 医科学専攻 (理化学研究所 免疫アレルギー科学総合研究センター 免疫系構築研究チーム)・修士課程2年		
出席会議名	The 15th International Congress of Mucosal Immunology		
発表論文タイトル	<u>Epithelial cell-intrinsic Notch signaling plays an essential role in the maintenance of gut immune homeostasis</u>		

実施結果:

7月5日から9日、フランス・パリの Université Paris Descartes (パリ第5大学)にて開催された International congress of mucosal immunology 2011 (ICMI 2011) に参加し、口頭発表を行った。ICMIは Society of Mucosal Immunology が主催する学会であり、粘膜免疫学に特化した国際会議である。15回目を迎える今回は、「Peace and War at Mucosal Surfaces」をテーマに、基礎医学から臨床医学、大学から企業にいたる幅広い分野の研究者が参加した。参加者は、963人に達し、144の口頭発表、489のポスター発表が行われた。8つのセッションから構成される招待講演では、炎症性腸疾患、粘膜ワクチン、宿主-共生細菌相互作用機構に関する研究に加え、T cell subset の可塑性や innate lymphoid cell など最新の知見が紹介され、活発な討論が交わされた。

私は、「Epithelial Cell and Intestinal Barrier」というセッションにおいて、「Epithelial cell-intrinsic Notch signaling plays an essential role in the maintenance of gut immune homeostasis」という演題名で腸管上皮細胞のバリアー機能に関する発表を行った。私自身にとって口頭発表は初めての経験であり、普段の研究活動では味わうことのできない緊張感や達成感を体感することができた。ポスターセッションでは、様々な分野の研究者と交流を図ることで、最新知見を体系的に学ぶことができ、非常に有意義な時間を過ごせた。Tadamitsu Kishimoto International Travel Award のご支援により、大学院生活の早期から国際舞台での研究発表を実体験することができ、今後の研究活動に役立つ重要な経験となった。